

27年12月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年12月1日～ 27年12月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/12月	28/1月	28/2月
仕入 動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 41.7	△ 40.0
	外材製材品	△ 16.7	△ 41.7	△ 50.0
	構造用集成材	△ 10.0	△ 30.0	△ 50.0
消費 動向	国産材製材品	△ 16.7	△ 33.3	△ 30.0
	外材製材品	△ 25.0	△ 41.7	△ 30.0
	構造用集成材	△ 30.0	△ 50.0	△ 37.5
在庫 動向	国産材製材品	△ 33.3	△ 25.0	△ 30.0
	外材製材品	8.3	0.0	△ 10.0
	構造用集成材	10.0	0.0	△ 12.5

・プレカット部材の仕入れは国産材、外材製品及び構造用集成材共に3ヵ月連続して減少。

・プレカット部材の消費は国産材、外材製品及び構造用集成材共に3ヵ月連続して減少。

・国産材プレカット部材の在庫は3ヵ月連続して減少。外材及び構造用集成材は12月のやや増加が、28年1月は横ばい、2月は減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	27/12月	28/1月	28/2月
受注	0.0	△ 33.3	△ 25.0
加工	△ 8.3	△ 33.3	△ 25.0
受注残	16.7	0.0	△ 25.0

・プレカット工場の受注は12月の横ばいが、28年1月、2月は減少。加工は3ヵ月連続して減少。受注残は12月の増加が、28年1月は横ばい、2月は減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・仕入れは、国産材は順調、外材は港在庫大幅減少。消費は低調。在庫は減少傾向。
・1～3月は不需用期に入るため仕入れは控えめ。消費は全体的に減。国産材は納期1ヵ月で発注可能なため、在庫調整が可能だが、外材は納期遅れもあり在庫は増。

(受注動向)

・寒さ厳しき折だが、受注大幅先行。
・1～3月は不需用期による受注減。但し、受注率は例年並、もしくは少し下がるのでは？。
・受注は順調。
・1月～3月にかけて県産材の補助金（市）がないため減少の見通し。